

声の文化を楽しむ —朗読のすすめ

好本恵 著 A5・240頁 定価(本体2,700円+税) ISBN978-4-8169-2836-9 2020年6月刊行

- 愛好者が増えている朗読の基本と楽しみ方を、フリーアナウンサーで大学やカルチャーセンターで朗読を指導している著者が伝授します。
- 朗読ボランティアや図書館のサークルなど朗読を通じた仲間との楽しみ方、家庭での子どもや孫への読み聞かせについても、事例を交えて紹介。
- 発声、呼吸法、作品理解などの基本から、人々との交流、旅、食、文学散歩など朗読を通じた楽しみ方も紹介。

著者プロフィール

好本恵 よしもと・めぐみ

元NHKアナウンサー。十文字学園女子大学文芸文化学科教授。NHK文化センター講師。「きょうの料理」「すくすく赤ちゃん」「NHK俳壇」「TVシンポジウム」「100分de名著」などを担当する。健康をテーマにしたシンポジウム、式典やコンサートなどの司会、ナレーターを務めることも多い。

著書に『話しことばの花束』(リヨン社・2007年)、共著に『認知症予防におすすめ図書館利用術2—読書・朗読は脳のトレーニング』(日外アソシエーツ・2018年)などがある。

【目次】

はじめに

第一章 朗読の基本を身につけよう

一、自分のよい声を知る

二、筋肉を鍛えて腹式呼吸を

三、話すように読む

四、「正しく・はつきり・すらすら」でよいのか

第二章 読み聞かせや朗読を始めた方へ

一、「読み聞かせ」から「読み合い」へ

二、昔話を語る

三、自作朗読を聞く／谷川俊太郎さん

第三章 よりよい朗読のために

一、名人は息で読む／間・緩急・息づかい

二、朗読とナレーション／アンネの日記

三、舞台朗読の魅力／新美南吉・金子みすゞ

四、声を磨く楽しさ／無声化と鼻濁音

第四章 朗読公演や文学館で発見する

一、朗読公演へ行く／今こそ小泉八雲の作品を

二、文学館へ行く／与謝野晶子

三、古典作品を朗読する／樋口一葉

第五章 朗読をめぐる旅

一、イメージして読む／宮澤賢治の世界

二、津軽・太宰治・女生徒

三、作品ゆかりの土地を歩く／おくのほそ道

第六章 朗読で声の文化に出会う

一、歌舞伎に特別の親しみを感じるとき／外郎売

二、古典芸能に親しむ

三、明治時代の朗読論争

第七章 朗読を共有する

一、仲間を楽しむ朗読

二、登場人物や作者の思いを推しはかりながら読む

三、浦しをんさん

四、伝える心でプレゼンテーション

第八章 朗読で元気に

一、言葉で関わって健康長寿

二、歌の治癒力

三、おいしい朗読

引用・参考文献

おわりに

2020.5

お問い合わせは… 日外アソシエーツ 営業局

TEL.03-3763-5241(代) FAX.03-3764-0845

〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 <http://www.nichigai.co.jp/>

■貴店名

注文書

声の文化を楽しむ
—朗読のすすめ

定価(本体2,700円+税) ISBN978-4-8169-2836-9

冊



9784816928369

一、仲間で楽しむ朗読

二十年続いているNHK文化センターの朗読クラスでは、毎年三月末にミニ発表会をおこなっています。限られた時間内でどんな作品を選ぶのか、作品のどの部分を披露するのか、どのように読むのか、三十代から八十代までのメンバーは大いに悩んで練習され、発表会の日を迎えます。取り上げる内容はとても個性的で、今年もさまざまな朗読を楽しみました。小説や随筆はもちろん、古典作品や短歌、俳句、詩、昔話など分野は自由です。自分がいつもは読まない文章を紹介される方もあって、こんな魅力的な作品もあったのか、是非あの作家の本を読んでみたい、とお互いに刺激を受けます。その作品を選んだ方の、普段は知らなかったお人柄を感じることもできるのも発表会のよさです。ユーモアあふれるエッセイには思わず笑いがこぼれ、老いや孤独について書かれた文章には考えさせられ、昔話や童話は子どもになった気持ちで楽しめます。なかには自作の童話を披露した方もありました。「○○さんのあの年の朗読は忘れられない」とみなさんの記憶に残る名文の朗読もありました。

人のまえで朗読するとうまくなる

一年間一緒に学んだ仲間と練習の成果を披露し合うのは、とても有意義なことです。ご本人は去年と比べてそんなに上達していないように思うかもしれませんが、確実にお一人お一人の「伝える力」が身につけていると感じました。芸事や趣味は人まえで披露すると一段と上達するといえます。恥ずかしがらずに楽しんで、自分なりに挑戦するのが上達のコツなのでしよう。

一人の持ち時間は三分です。みなさんが苦勞するのが、この三分という時間にどうやって入れるかです。短くてインパクトのある作品選びができて、そのまま読むのは時間的に無理なので、作者に申し訳ないと思いつながら、抜粋し編集しなければなりません。さらに、原稿を読みやすいように書き直し、拡大し、書き込み原稿を作り、まさに作品と格闘しながら下読みをしていきます。その作業に熱心に取り組んだ方の朗読は完成度が高く、ご本人の満足度も高いような気がします。今年も全員の顔に自分なりに取り組んだという達成感が感じられ、つたない指導者ではありますが、私も嬉しくなりました。

スピーチの力もついて

さらに今年は、終わったあとに感想や解説をお聞きしました。そのスピーチの内容が興味深

『声の文化を楽しむ
—朗読のすすめ』
内容見本

く、どなたも話し上手で再び感動しました。クラスに入ったときは、人のまえで話をするのが苦手だという方や、一日中だれとも話さないので声が出ないという方、「ボケ防止」のために来ているという方もいたのに、だれもがユーモアもまじえ素敵な笑顔でのびのびと話をなさいます。みなさん知らないうちにスピーチも得意になっていたのです。改めて、朗読を学ぶことは普段の話し言葉も磨いてくれるのだと確信しました。来年はどなたがどんな作品の朗読を披露してくださるのか、今からとても楽しみます。

